

## 失敗から学ぶ農業3年生！

アグリパークつがる塾 今 久男

「無農薬で野菜や米を育ててみたい」そんな想いで平成18年に脱サラ・新規就農しました。

25年間勤めた農林中央金庫ではJA広島信連をはじめ、全国の信連・JAとお付き合いをさせていただきました。さらにJA全中への出向でいつの間にか机上の世界に埋没している自分がいました。

そんな自分に「農業で生活ができるか？」不安もあり、随分悩み、いろいろな方に相談しましたが、新しい挑戦に賛同・応援していただき、思い切って第2の人生をスタートさせました。

生来の無精者なので農薬を使用しないことは、仕事がひとつ減るのでは・・・と考えましたが、現実はそんなに甘くありませんでした。

いざ実践してみますと、就農1年目では5月に植えたキャベツが葉っぱの芯を残して青虫にきれいに食べられてしまいました。

また、露地植えのナスにあぶら虫が大量発生し、もくさくえき木酢液や牛乳ではどうにもならず、何度か手で捕殺後成り行きに任せました。野菜の生命力のお陰か、8月にわずかばかりの収穫にこぎつけました。無農薬での野菜づくりは、最悪の場合収穫ゼロとなるリスクを抱えていると改めて思い知らされました。

2年目は米づくりに挑戦です。約10年放置された田んぼを開墾し、葦の根が浮いている田んぼに苗を植えました。田植えに両親が手伝いにきましたが、葦の根が浮いている田んぼを見て「こんな田んぼで稲づくりをするのは馬鹿！」と怒られました。確かに最悪収穫

できないかも・・・との不安は私もありました。それでも初志貫徹。肥料・除草剤は使用せず、手押し式除草機での除草、バインダーで刈り取り後、天日乾燥を経て脱穀機で脱穀し、悪戦苦闘の末10月には何とか玄米となりました。収穫できた喜びに思わず自然の恵みに感謝です。この天日干しの米は甘みがありおいしい、との感想をいただきこれまでの苦労が吹っ飛びました。

しかしながら、田んぼに手間取ったことからんにくに手が回らず収穫は散々でした。野菜は手をかけたからといって良いものが採れるとは限りませんが、手を抜けばそれだけのものしか収穫できないことを実感しました。

3年目の今年は無農薬での野菜づくりには堆肥が必要不可欠との考えから、堆肥製造を本格化させる準備を進めています。

野菜・米づくりに加え、堆肥製造・経理処理・営業と課題山積ですが、幸いにもハウス内でのトマト・キュウリ栽培は病気もつかず収穫ができ、またグリーンアスパラは甘みがあって美味しいと言われるようになりました。

無農薬ということで雑草と害虫対策が最大の課題ですが、いずれも自分でできる範囲での処理です。故に収穫量が平均以下であったり、雑草の中に野菜があったりとまさに3年生の農業です。

このような生活も健康であるから可能なことと考え、医者を超ざける「医を超える農」を目指して安全・安心な食を育てていきます。

(こん ひさお)